

視察報告書 2年10月28作成 保守の会 吉田つとむ

調査事項 3 「with コロナの時代を見据えて

—地方からの行政改革、議会改革—

コーディネーター・コメンテーター 福岡 政行 氏

(常任講師・白鳳大学名誉教授)

パネリスト 中川 智子 氏 (宝塚市長)

ビアンキ・アンソニー 氏 (前犬山市議会議長)



この中で、ビアンキ・アンソニー 氏 (前犬山市議会議長) を注目しました。ビアンキ アンソニー氏は、犬山市議会議員 (前議長)、日本で英語教育等を目的に来日し、その充実を図る目的で、最終的に担当した犬山市で市議選に出ることを決意し、日本国籍を取得する。トップ当選後、市長選に挑んだ後、4期目にして議長に就任。「前例より、前進」を掲げ、議会改革に取り組む。議会での市民のフリースピーチを実現。委員会の議員間協議を導入し、付帯決議、委員長報告、政策提言に生かす。



### <所感>

愛知県犬山市のビアンキ・アンソニー議員は、意外と安定して選挙に強いという特徴（3位以上）がありました。物珍しさから（また、日本人は何でも白人に優しい）、1度はトップになることがあっても、連続してトップ、あるいは上位を占めることはなかなか困難なものです。蛇足ながら、来日して地域で英語教育に携わったことで、多くの教え子が存在しているのでしょう。

ビアンキ・アンソニー議員は、議会の改革で大きな貢献をしてきたことが、その評価を高めている点で、5期目当選を重ねていることも議員評価を高めていると思います。

上記の「市民のフリースピーチ」は記録や映像を見せていただきましたが、そのテーマを委員会の協議事項にするか、あるいは議員が一般質問で取り上げ、中身を深めていくか、その選択自体が議会の在り様を変えていくと思います。

町田市議会では、住民請願の審査で同様の協議スタイル（請願者の意見陳述、議員が請願者に質疑を行う）を取っていますが、一般の市民が議場（あるいは、委員会）で発言する例はありません。\*委員会で、特定の議題に関して、参考人の意見陳述、委員質疑がある例もありますが、一般市民が発言するものとは趣旨

が異なると思います。



「市民のフリースピーチ」は、1人5分の設定とありますが、議員の質疑は除かれる場合、特定の話題がきっちり出るものと思います。行政に何度も話を入れたが全く進展がないというケースが、この「市民のフリースピーチ」に登場する説明がありました。議員間協議の対象にされ、行政への要求につながるスタイルも説明していただきました。市民はこうした経験を重ね、行政とは一線を引いた議会の在り様を受け止めてくれるものと思いました。

町田市議会は、高校生と町田市議会議員の意見交換会を、私が議長の際に提唱して、開催にこぎつけました。まだまだ、これから内容も充実し、議会の議論の中に反映されるものと思いますが、「市民発言」が議会の論議により反映される、この犬山市議会の取り組みが更に他の議会に影響を与えるようになってもらいたいし、その良い点を取り込む機会をうかがいたいと思います。

もう一人の講師である中川 智子 氏（宝塚市長）、及び、コーディネーター・コメンテーター 福岡 政行 氏（常任講師・白鳳大学名誉教授）の部分は、議会の反映の度合いから省きました。